

鈴鹿市自転車駐車場整備方針

平成28年11月30日
危機管理部 交通防犯課

1 目的

現在、市内の駅周辺には、市の設置する自転車駐車場が27箇所存在しており、そのうち有料の施設が3箇所（合計収容台数：約750台）で、無料の施設は24箇所（合計収容台数：約5,300台）である。

自転車駐車場は、交通安全施設の1つとして、平成28年度からスタートした「鈴鹿市総合計画2023」に基づき整備を推進する必要があることから、次のとおり自転車駐車場の整備方針を策定する。

2 現状と課題

市では、駅周辺における放置自転車の問題解決のため、昭和50年度から自転車駐車場の整備を進めてきた。

この結果、全ての駅周辺に自転車駐車場が設置されている。（伊勢鉄道の各駅には、鉄道事業者の設置する自転車駐車場が整備）

しかし、依然として一部の駅周辺には多くの放置自転車が存在しており、通行の妨げとなっている。

（1）乗降人員が多い駅における自転車駐車場の不足

鉄道利用者の乗降人員が多い駅（近鉄白子駅、近鉄平田町駅、近鉄鈴鹿市駅）では、自転車利用者が集中し、駐車場不足から自転車が路上に放置され、道路の通行障害や緊急車両の進入妨害、さらに景観の悪化などの問題が発生している。

（2）自転車等放置禁止区域の再検討

市では、条例に基づき、大量の自転車等の放置により良好な都市環境が阻害されていると認められる区域を自転車放置禁止区域として指定して、自転車等の放置防止対策を平成7年度から開始した。

近鉄白子駅及び近鉄平田町駅周辺において、駅から概ね200メートルから300メートル以内の区域を自転車放置禁止区域として指定し、自転車等放置防止指導員を配置して指導を実施した結果、放置自転車等の撤去数は年々減少し、一定の効果があつたものと考察される。

今後は、他の駅周辺においても検討を行い、必要があれば周辺住民の同意のもとに、自転車放置禁止区域の追加設定が必要である。

(3) 乗降人員が多い駅における無料自転車駐車場の課題

ア 収容可能台数以上の利用

無料駐車場では、収容可能台数を大幅に超過しており、無理に駐車する利用者が多く、自転車の取出しが困難となっている。

また、無理な駐車により、転倒等が原因で自転車が破損する事故も多く発生している。

イ 有料駐車場と無料駐車場の混在による利用率の不均衡

有料駐車場と無料駐車場が混在していることから、無料駐車場は収容可能台数が超過しているが一部の有料駐車場は利用率が低いなど、施設が有効に利用されていない現状がある。

ウ 盗難事件の多発

無料駐車場には管理人を配置しておらず、また鍵等の防犯施設もないことから、自転車の盗難事件が多発している。

特に、夜間に駐車場に留置く利用者の多い自転車駐車場(例:近鉄千代崎駅)は、駐車特性から盗難事件の発生が多い状況にある。

(4) 原動機付自転車などの駐車場不足

現在、有料駐車場は第二種原動機付自転車(排気量125立方センチメートル未満)まで、無料駐車場は第一種原動機付自転車(排気量50立方センチメートル未満)までの駐車を認めている。

原動機付自転車の利用者は、防犯設備が充実している有料駐車場の利用希望が多いが、有料駐車場は限定されており、また既設の有料駐車場についても収容台数が限られているため、要望に応えきれない状況にある。

(5) 自転車駐車場の管理費用及び放置自転車の対策費用の増加

有料駐車場の管理は、平成24年度に策定された鈴鹿市行財政改革アクションプランに基づき、平成26年度から順に指定管理者制度により民間事業者へ管理を委託して、利用者サービスの向上と経費の節減を図っている。

無料駐車場の整理・清掃業務及び放置自転車の撤去作業等については、高齢者の社会参加活動の一環として、シルバー人材センターに委託している。

さらに、近鉄白子駅及び近鉄平田町駅周辺の自転車放置禁止区域には、自転車等放置防止指導員を配置して指導を実施している。

事業実施にあたっては経費節減に努めているものの、事業費は有料駐車場の料金収入を差し引いて約3千万円(平成28年度当初予算)にのぼり、市の大きな財政負担となっている。

3 自転車駐車場の整備の考え方

自転車の安全で快適な利用環境の確保と適切な利用の促進を図り、前記2に掲げた課題を解決するため、また、鈴鹿市行財政改革大綱の視点に基づき、自転車駐車場の有料化を推進する。

(1) 質の高い快適な自転車駐車場に再構築

- ア 駐車場に屋根を設置するなど、利用者の快適性を確保する。
- イ 自転車ラック（一部平置）を設置し、適切な駐車スペースを確保する。
- ウ 自動精算機の設置等による利用時の簡素化を図る。
- エ 高齢者や障がい者にも配慮した思いやりゾーンを設定する。
- オ 原動機付自転車の駐車需要にも対応した施設を進める。

(2) 安全で安心な自転車駐車場に改善

- ア 管理人が常駐又は巡回するなど、防犯能力の向上を図る。
- イ 施設の照明灯や防犯カメラを設置するなど、安心感の醸成を図る。
- ウ 電磁ロックを設置するなど、盗難の抑止に努める。

(3) 自転車駐車需要の調整

- ア 有料化により、短距離の通勤・通学では徒歩による移動へ誘導するなど、移動距離に応じた対応により、自転車の無秩序な利用を是正し、自転車駐車需要を調整する。
- イ 有料化とあわせて、自転車放置禁止区域の追加設定を図る。

(4) 受益者負担の適正化

- ア 自転車駐車場の利用者に対して、受益者負担の原則に基づき利用者負担の適正化を図る。
- イ 駐車料金の設定にあたっては、駐車場の利便性に応じた料金設定を検討する。
- ウ 学生の利用については、駐車料金の割引等の措置を引き続き行う。

(5) 公益財団法人 自転車駐車場整備センターの活用

- ア 公共的団体である「公益財団法人 自転車駐車場整備センター」の資金、経営能力及び技術的能力を活用し、自転車駐車場の建設を始め、駐車料金の徴収などの運営、維持管理や施設の修繕などの管理業務に至るまでの事業を一括して契約する手法を推進する。
- イ 上記手法の導入により、事業コストの削減、より質の高い公共サービスの提供を目指す。
- ウ 既設の有料駐車場についても、一括管理を検討する。

(6) 自転車駐車場の有料化の進め方

ア 市内の該当する駅周辺について、次表のとおり整備を推進する。

種別		該当する駅	今後の方針案
第1種	1日の駅乗降人員が2,500人を超過する駅	近鉄白子駅 近鉄平田町駅 近鉄鈴鹿市駅	最優先に有料化を図る。
第2種	1日の駅乗降人員が1,500人以上2,500人以下の駅	近鉄千代崎駅 近鉄伊勢若松駅 近鉄磯山駅	有料化への検討を進める。
第3種	1日の駅乗降人員が1,500人未満の駅 (伊勢鉄道の各駅を除く。)	その他の近鉄駅 (長太ノ浦, 三日市, 鼓ヶ浦, 箕田, 柳) J R加佐登駅 J R河曲駅	当面は無料とする。
第4種	伊勢鉄道の各駅(1日の駅乗降人員が500人未満)	鈴鹿, 中瀬古, 鈴鹿サーキット稲生 玉垣, 徳田	鉄道事業者の負担において駐車場を設置する。

イ 駅ごとの地域自転車駐車場整備計画を策定する。

地域住民や自転車駐車場の利用者の意見を参考に、駅ごとの地域自転車駐車場整備計画を策定し、同計画に基づき施設整備を進める。